

## 郵政民営化委員会（第125回）議事要旨

日 時：平成26年12月15日（月）9：30～11：30

場 所：永田町合同庁舎3階 郵政民営化委員会室

出席者：増田委員長、米澤委員長代理、老川委員、清原委員、三村委員

株式会社ゆうちょ銀行 井澤代表執行役社長、米澤代表執行役副社長  
田中執行役副社長

株式会社かんぽ生命保険 石井代表執行役社長、南方代表執行役副社長  
千田常務執行役

日本郵政株式会社 谷垣専務執行役

### 1. 概要

3年ごとの総合的検証を行うための一環として「民営化推進に向けた取組」について株式会社ゆうちょ銀行及び株式会社かんぽ生命保険から説明があり、質疑応答が行われた。

### 2. 委員会での説明・意見等

#### (1) 説明の概要

○民営化推進に向けた取組について【資料125-1、2】

- ・ これまで安定的に収益を確保しているが、ゆうちょ銀行では、貯金残高は、ここ数年は純増となっているもののその伸びは鈍く、依然として長期減少傾向にあり、かんぽ生命保険では、新契約は民営化以降緩やかに回復しているものの保有契約の減少に歯止めが掛からない状況が継続しており、両社とも厳しい経営環境にある。
- ・ こうした中、①新規業務など、利用者利便向上のための取組、②郵便局との連携による営業力の強化、③株式上場に向けた業務体制の強化等に取り組んでいるとの説明があった。

#### (2) 委員からの意見等

○ゆうちょ銀行関係

- ・ 内部管理態勢の強化は進んでいるが、まだ不祥事件は発生している。企業の信頼度に関わるものであり、より徹底してもらいたい。  
(⇒コンプライアンスは全てに優先するものであり、引き続き徹底させる。)
- ・ 個人の貯金残高が他行と比較してその伸びが小さい理由をどう捉えているか。  
(⇒限度額規制、低金利の継続といった外的要因もあるが、法人取引が弱いこともあり、給与口座の獲得等努力が足りない部分がある。比較的順調な年金口座の獲得とともに更に努力を続けていきたい。)
- ・ ゆうちょ銀行の店舗は、他行と比較して圧倒的に多いが、預貯金の伸びは低く、投資信託の手数料収入も決して高くない。郵便局との間で組織的にネガティブなところがあるのか。  
(⇒営業については、日本郵便の社長と定期的に意見交換しており、投資信託はより力を入れる方針。直営店では全店取り扱っているが、郵便局ではまだ、1,400局でしか取

り扱っていない。今後、郵便局で売りやすい商品ラインナップを増やしていきたい。)

- ・ 運用の多様化で収益を上げるには人材が問われるが、どのように対応しているのか。  
(⇒外部から、金融工学等の専門知識を有した職員を採用している。)
- ・ システム要員を増やして内製化することは重要。コスト削減にもつながり、いい方向であるが、これを、ゆうちょ銀行だけでなく日本郵政グループ全体としてのシステム向上のため、改善に努めつつ活用してほしい。

#### ○かんぽ生命保険関係

- ・ 生保市場全体が第三分野にシフトしている中、商品販売戦略についてどう考えているか。  
(⇒既契約者に対する訪問や加入年齢の引上げ等の高齢者向けサービス等に取り組みたい。)
- ・ 満期代替の向上を図るため、どう取り組んでいるか。  
(⇒満期前の訪問活動による満期案内等に取り組み、新規契約につなげていきたい。)
- ・ 人材の育成、多様化にどう取り組むのか。公社時代に新規採用を抑制したため、年齢構成が不規則になっており、その点も課題。  
(⇒新規採用のほか、専門分野を中心に中途採用を進めてきており、今後は、OJTに重点的に取り組みたい。)

以上

(注) 議事要旨は事後修正の可能性があることに御留意ください。また、詳細については追って公表される議事録を御覧ください。